

音楽科学習指導案

6年3組 藤本 佳子

1. 単元名 「反復を意識してリズムパターンをつくろう」
2. 研究主題

未来そうぞうの資質・能力を育成する生成の原理による音楽授業

(1) 単元について

指導内容：指導事項：反復(リズムパターンの反復)

共通事項：表現 A(3) イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

教材：リズムパターンづくりの活動

本単元は、『小学校学習指導要領音楽編(平成 20 年改訂)』の表現 A(3)「イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。」に基づいて構成した音楽づくりの単元である。

子どもたちは、日本伝統音楽による音楽づくりの学習として一弦箱を用いた音楽づくりを経験している。そこでは、自分で作った一弦箱から出る音色からイメージを広げ、それらの組み合わせ方や演奏の仕方を工夫することによってイメージしたものを描写的に表すという学習を行った。

本単元は、リズムパターンを反復した演奏に対してイメージをふくらませ、そのイメージをより表すためにどのように演奏を工夫するかを考える単元である。日本伝統音楽以外の音楽を扱う点が、これまでの学習とは異なる点である。子どもたちが、反復という要素を意識し、自分たちのもったイメージを表すために工夫して演奏することができるような学習展開にしたい。

【柱 1：人と地域と音楽／風土・生活・文化・歴史／生活と音楽とのかかわり／風土、生活、文化】

子どもたちは、音を音楽に組織していくとき、日常の経験をもとに組織化のヒントを得て作品にしている。本単元では、反復という音楽の構成要素に着目し、リズムパターンを反復することで生み出されるイメージを扱うのであるが、人々は生活の中で反復を自然と経験している。その例として、「朝に日が昇り夕方に沈む」「海の満ち引き」「春夏秋冬の周期」が挙げられる。子どもたちが「朝、学校に登校して夕方に帰宅する」ことも当てはまるだろう。学習の展開において、子どもたちがイメージをもってリズムパターンづくりを進めていく際には、生活と音楽のかかわりを意識できるようにしたい。

【柱 2：音楽の仕組みと技能／日本伝統音楽以外の音楽／形式／反復／リズムパターンの反復】

本単元では子どもたちが自分たちでつくった 4 拍のリズムパターンを反復して演奏することによってどのようなイメージが生まれるのかについて考え、そのイメージを表すために演奏を工夫する学習活動を展開する。4 拍のリズムパターンは、たった一度演奏しただけではイメージが広がりにくい。反復して演奏することによってイメージが広がり、そのリズムパターンのおもしろさを感じられる。このことから、〈経験〉の段階においては何度も反復してリズムパターンを演奏する場を設け、〈分析〉の段階においては反復の有無を比べる比較聴取を行い、反復の有無による効果を子どもたちが明確に感じられるようにしたい。

【柱 3：音楽と他媒体】

特になし

(2) 単元の目標と評価規準

観点	目標	具体的評価規準
観点 1 音楽への関心 ・意欲・態度	○リズムパターンの反復に関心をもち、意欲的にリズムパターンをつくり、演奏する。	①リズムパターンの反復に対して気づいたことや感じたことなどの意見を意欲的に伝えたり、他者の意見にも関心をもって自分なりに受け止めたりしている。 ★②自分たちのイメージを表すことができるように、自分の意見を意欲的に伝えたり、反復を意識して演奏しようとしたりしている。
観点 2 音楽表現の 創意工夫	○リズムパターンの反復について知覚しそれが生み出す特質を感受する。 ○リズムパターンの反復を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	★①リズムパターンの反復について知覚・感受したことをワークシートやアセスメントシートに適切に記述したり、発言したりしている。 ★②リズムパターンの反復について知覚・感受したことを生かしながら、イメージが伝わるように表現を工夫している。
観点 3 音楽表現の技能	○リズムパターンの反復を意識し、つくった音楽のイメージが伝わるように表現する。	★①イメージが伝わるようにリズムパターンの反復を意識して考えた工夫を演奏で表すことができている。

★は主に学習成果をみる評価である。

(3) 活動構成の仮説

協働的実践力が発揮されるようにすることで、主体的実践力と創造的実践力も連動して発揮される。

今年度は、上記の仮説に基づき、授業研究を行ってきた。その中で、イメージの自由度が高い教材を扱い、ペア活動・グループ活動を授業に組み込むことが、子どもたちが生活経験に基づいたイメージをもち、友だちとイメージを共有しながら活動を進めることができるため協働的実践力を発揮させるために有効であることがわかってきた。そこで、本単元を構成する際には、イメージの自由度が高い教材を扱うこと、ペア活動・グループ活動を授業に組み込むことの 2 点に基づいて構成した。ただし、協働的実践力だけが起点で主体的実践力や創造的実践力が生まれるのではなく、協働的実践力が発揮されることで主体的実践力や創造的実践力がより発揮されるということであるので、教材は自由にイメージしたことに基づいて、様々な表現の工夫が考えられるような創造的実践力が発揮される可能性のあるものである必要がある。

これらのことから、今回はリズムパターンづくりを取り上げることにした。リズムパターンに対してもイメージは様々にあり、イメージの自由度が高いと考えられる。例えば、歌唱曲の場合であれば、歌詞があり、歌詞からのイメージがその曲のリズムや旋律に対するイメージに大きくかかわる。しかし、今回扱うのはリズムパターンそのものであるため、他の要素に影響されることなく子どもたちが自由にイメージをもつことができると考えた。また、そのイメージは子どもの生活経験をもとに生まれると考えられるため、グループで活動することにより、イメージを共有しながら協働的実践力を発揮させて活動を進めることができると考えた。

3. 単元計画 (全 4 時間)

ステップ	学習活動	時
経験	・ 4 拍のリズムパターンをつくり、反復して演奏できるようにする。 ・ つくったリズムパターンを反復させるとどのようなイメージがするかを考える。	第 1 時
分析	・ リズムパターンの反復がある演奏とない演奏を比較聴取し、リズムパターンの反復について知覚・感受する。 ・ つくったリズムパターンに題名をつけ、題名に合う演奏にするための工夫について手がかりを得る。	第 2 時
再経験	・ 題名に合うように演奏の仕方を工夫する。 ・ 中間発表をし、さらに演奏の仕方を工夫する。	第 3 時 (本時)
評価	・ 演奏を交流し、リズムパターンの反復についてのアセスメントシートに答える。	第 4 時

4. 本時の目標

○リズムパターンの反復に関心をもち、意欲的にリズムパターンをつくり、演奏する。

(観点 1 音楽への関心・意欲・態度)

○リズムパターンの反復を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。

(観点 2 音楽表現の創意工夫)

5. 本時の展開

ねらい	子どもの活動	教師の活動	評価
再経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名に合うように演奏の仕方を工夫する。 ・ 中間発表をし、さらに演奏の仕方を工夫する。 		
<p>◆グループで自分たちの作品に対する共通のイメージをもたせ、それに合う演奏の仕方の工夫を考えさせる。</p> <p>◆他のグループの演奏を聴くことで、演奏の工夫への手がかりをさらに得させる。</p> <p>◆自分たちの演奏を完成させ、演奏できるようにさせる。</p>	<p>1. 自分たちのリズムパターンに題名をつけ、題名に合うように演奏の仕方を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>馬のレースはどうか。途中で大きくして盛り上げて、最後はレースが終わるようにだんだん弱くしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>おいかけっこはどうか。「タタタ」と走っているところは強くしてみよう。</p> </div> <p>2. 中間発表をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>強弱がしっかりついていて、途中で盛り上がる感じがよく伝わってきたよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>最後を弱くしてゆっくりにしていたから、終わっていく感じがしたよ。</p> </div> <p>3. さらに演奏の仕方を工夫し、練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時に行った、全体でリズムパターンに合う題名を考えたり演奏の工夫を考えたりした活動をふまえて、自分たちのリズムパターンの反復にはどのような題名が合うか、題名に合うようにするためには演奏の仕方をどのように工夫したらよいか考えるように言う。 ●いくつかのグループに題名と演奏を紹介させる。 ●どのような工夫によってどのような感じが表れているか、意見を交流する。 ●新たなアイデアが出された場合は、実際に試させる。 ●2 の活動で出した意見等をふまえて、自分たちの演奏を完成させるように言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 観点 1 - ② (観察) ★ 観点 2 - ② (観察・ホワイトボード)

公開授業③ (9:50~10:35)

平成 31(2019)年 2月 9日(土)
場所：第 1 音楽室